

海老名災ボラ、えびな市民祭りで、防災・減災をPR！

2016年7月24日、海老名災害ボランティアネットワーク 福田博

2016年7月24日（日）、えびな市民まつりが海老名運動公園で開催されました。海老名災害ボランティアネットワークは、防災消防ランド（多目的広場）で、テントを借りて、防災パネルの展示、防災・減災に関するアンケート調査、新聞紙を活用したコップづくりなどを行いました。

当日、10時に市が設営したテントに4名の会員（橋本、青木、福田、三宅）が集まりました。そこへ、えびな災ボラの元会員であった方（田中彰人さん）が京都府から応援に駆けつけてくれました。さらに2名の会員（水本、野本）が駆けつけてくれました。

テント内に防災パネルをぶら下げ、机を配置し、市民の皆さんが訪れるのを待ちました。その間に、隣にブルーシートを活用した三角テントを設営しました。（同じテント内に市危機管理課の方が防災ラジオの販売を行いました。）

市の災害備蓄品の中から、ペットボトルの水（2リットル）、パンの入った缶詰の提供を受けました（150個）。災ボラのテントに立ち寄って、アンケートなどに協力して頂いた方にこれを提供することで、準備しました。



<写真 防災消防ランド内に設営された海老名災ボラのテント>

11時前から市民の皆さんが続々と防災消防ランドにきました。そのうちの何組かは、私たちのテントにも立ち寄ってくれました。アンケート調査への協力をお願いすると、大部分の方が協力してくれました。調査票（A4表裏）を配布し、「災害の時、自分の家をイメージして記入してください」という簡単な説明をして、書いてもらいました。皆さん、真剣に考えながら、書き込んでいました。書き終わった方の調査票をみせてもらい、それぞれの方の回答内容に応じて、災ボラの会員が多少のコメントを付けました。「家族の方とも相談してください」と言って、調査票は持ち帰って頂きました。

12 時前には用意した 30 枚の調査票が不足したので、アンケート調査は一時中止し、「新聞紙を活用した紙コップの作り方」を立ち寄った家族連れの方たちと行いました。昼休みの間にアンケート調査票をコピーしてもらいました（50 枚）。午後 1 時頃から、アンケート調査を再開しました。増刷した 50 枚の調査票も午後 3 時頃にはなくなってしまい、その時点で調査は終了しました。

＜回答して頂いた者の傾向＞

海老名災ボラのテントに立ち寄ってくれて、アンケート調査に協力して頂いた方は、若い家族連れ（子どもは小さい）と高齢者が多く、働き盛りの男性は少ない、男性よりも女性が多かった。調査に協力してくれた方は、ある程度、防災・減災に関心がある方と思われる。

集計していないのですが、「アンケート調査に協力してくれた方」の回答を見た印象では、次のような傾向があるように思いました。

問 1（地震の揺れを感じた時の行動）では、ア「丈夫なテーブルや机の下で支柱を持って揺れの収まるのを待つ」、イ「家の中で柱の多いトイレに駆け込み少しドアを開けて、揺れの収まるのを待つ」、ウ「家具類の転倒・落下物・ガラスの飛散などを避けて室内の安全な場所に移動する」などが多かった。それぞれの家や室内の状況を考えた結果ではないかと思えます。

問 2（地震の揺れが収まった後の行動）では、イ「火を使っていたら、すぐに火の始末をする。出火したら初期消火をする」、ウ「建物の中にいる人（家族）の安否（ケガの有無など）を確認する。エ「いつでも避難できるようにドアを開けて出口を確保する」が多かった。

問 3-1（地震後の大規模火災発生への対応行動）では、一時集合場所や広域避難場所がどこか、具体的には知らない方もかなりいるようでした。

問 3-2（防火機器の設置）では、「住宅用消火器」や「漏電遮断器」はどこでも置いてあるようですが、「住宅用火災警報器」を設置している家は少なく、「感震ブレーカー」を設置している家はほとんどないという印象でした。

問 4（備蓄）では、水と食料品、医薬品などを準備している方が多かった。しかし、非常用持ち出し袋（水、非常食、救急セット、歯ブラシ懐中電灯等）を用意している方は少ない。

問 5-1（室内の危険性の低減）では、ア「家具の固定」を既にやっている家はかなりある。しかし、イ「ガラス飛散防止フィルムを貼った」家は少ない。

問 5-2（事前の備えをしない、できない理由）では、「高齢や障がいなどのために、こうした備えを実施する力がない」がかなりあった。

＜今回の調査実施に関する反省点＞

7月の定例会での予想に反して、調査に協力して下さったが 80 名に達したことは評価できると思います。逆に、調査票を題材にして災ボラ会員と市民の皆さんがじっくり話す時間が無くなったことが反省点です。市民と話し合える場所の確保、説明書の作成と配布、説明や話し合いが得意な会員の増加も必要だと思います。

災害時に安全を守る的確な行動について「知っていること」と「実際にできること」の間には差があるので、「事前の備え」で減災対策と「実践的な訓練」が必要です。